

## H19 年度電気回路 II 宿題 (第 10 回)

### 課題

以下の回路において、時刻  $t = 0$  でスイッチ  $S$  が端子  $a$  から端子  $b$  に切り替わるものとする。以下の各場合について抵抗  $R$  に流れる電流の時間変化を求めよ。ただし、 $t$  の単位は秒とする。

1. 図 1 の回路で、 $R_0 = 5 \Omega$ 、 $R = 15 \Omega$ 、 $L = 1 \text{ H}$ 、 $v_0(t) = 10 \sin(5t + \frac{\pi}{2}) \text{ V}$ 、 $v(t) = 20 \sin(5\sqrt{3}t - \frac{\pi}{6}) \text{ V}$  のとき。

2. 図 2 の回路で、 $R_0 = 5 \Omega$ 、 $R = 15 \Omega$ 、 $C = 1/25 \text{ F}$ 、 $v_0(t) = 10 \sin(5t + \frac{\pi}{2}) \text{ V}$ 、 $v(t) = 20 \sin(\frac{5\sqrt{3}}{3}t - \frac{\pi}{6}) \text{ V}$  のとき。

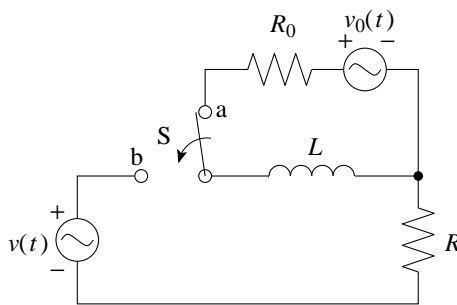


図 1

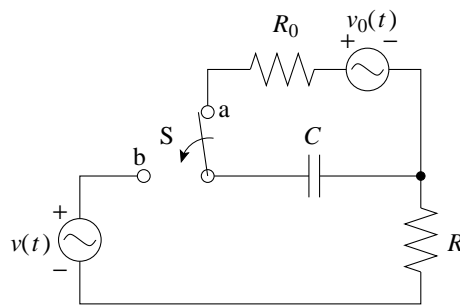
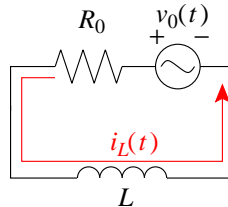


図 2

### 解答

1. (a) まず、 $t < 0$  での状態を考えコイルに流れる電流を  $i_L(t)$  とする。このとき電源の角周波数は  $\omega_0 = 5 \text{ rad/s}$  であるので



$$L \frac{di_L}{dt} + R_0 i_L = 10 \sin\left(5t + \frac{\pi}{2}\right) \quad \rightarrow \quad (j\omega_0 L + R_0) I_L = 10 e^{j\frac{\pi}{2}}$$

ここで、 $I_L$ 、 $10 e^{j\frac{\pi}{2}}$  はそれぞれ振幅表現した電流  $i_L$  と電圧  $v_0$  のフェーズである。上式を  $I_L$  について解くと

$$I_L = \frac{10 e^{j\frac{\pi}{2}}}{R_0 + j\omega_0 L} = \frac{10 e^{j\frac{\pi}{2}}}{5 + j5} = \frac{2 e^{j\frac{\pi}{2}}}{1 + j} = \frac{2 e^{j\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2} e^{j\frac{\pi}{4}}} = \sqrt{2} e^{j\frac{\pi}{4}}$$

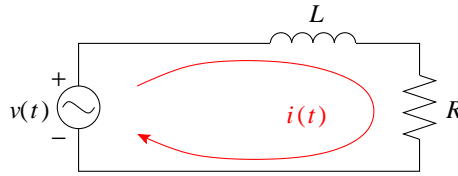
$I_L$  を時間の関数の形で書き表すと

$$i_L(t) = \sqrt{2} \sin\left(5t + \frac{\pi}{4}\right)$$

したがって、 $t = 0$  でコイルに流れる電流は

$$i_L(0) = \sqrt{2} \sin \frac{\pi}{4} = \sqrt{2} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = 1 \text{ A}$$

(b) 次に  $t > 0$  を考え、回路方程式を立てると以下のように書ける



$$L \frac{di}{dt} + Ri = 20 \sin \left( 5\sqrt{3}t - \frac{\pi}{6} \right)$$

上式の定常解  $i_s(t)$  は以下の微分方程式を満たし、1(a) と同様にフェーザを使って右の式を得る

$$L \frac{di_s}{dt} + Ri_s = 20 \sin \left( 5\sqrt{3}t - \frac{\pi}{6} \right) \quad \rightarrow \quad (j\omega L + R)I_s = 20 e^{-j\frac{\pi}{6}}$$

ここに  $\omega = 5\sqrt{3}$  であり、 $I$  は振幅表現での電流のフェーザである。 $I$  について解くと

$$I_s = \frac{20 e^{-j\frac{\pi}{6}}}{R + j\omega L} = \frac{20 e^{-j\frac{\pi}{6}}}{15 + j5\sqrt{3}} = \frac{4 e^{-j\frac{\pi}{6}}}{3 + j\sqrt{3}} = \frac{4 e^{-j\frac{\pi}{6}}}{\sqrt{12} e^{j\frac{\pi}{6}}} = \frac{2\sqrt{3}}{3} e^{-j\frac{\pi}{3}}$$

$I_s$  を時間の関数の形で書き表すと

$$i_s(t) = \frac{2\sqrt{3}}{3} \sin \left( 5\sqrt{3}t - \frac{\pi}{3} \right)$$

一方、過渡解  $i_t(t)$  は以下の微分方程式を満たす。

$$L \frac{di_t}{dt} + Ri_t = 0$$

上式は、1 階の微分方程式であり、その階は以下のように求まる。

$$i_t(t) = A e^{-\frac{R}{L}t} = A e^{-15t} \quad (A \text{ は積分定数})$$

したがって、一般解  $i(t)$  は以下のように書ける

$$i(t) = i_s(t) + i_t(t) = \frac{2\sqrt{3}}{3} \sin \left( 5\sqrt{3}t - \frac{\pi}{3} \right) + A e^{-15t}$$

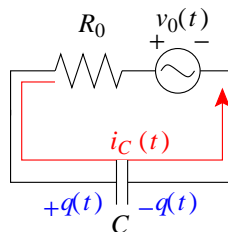
ここで、未知の積分定数  $A$  を決めるために、1(a) で求めた結果を用いると

$$i(0) = \frac{2\sqrt{3}}{3} \sin \left( -\frac{\pi}{3} \right) + A = \frac{2\sqrt{3}}{3} \left( -\frac{\sqrt{3}}{2} \right) + A = -1 + A = 1 \quad \rightarrow \quad A = 2$$

以上より、抵抗  $R$  に流れる電流  $i(t)$  は  $t \geq 0$  において以下のように表される。

$$i(t) = i_s(t) + i_t(t) = \frac{2\sqrt{3}}{3} \sin \left( 5\sqrt{3}t - \frac{\pi}{3} \right) + 2e^{-15t} \text{ A}$$

2. (a) まず、 $t < 0$  での状態を考えコンデンサに蓄えられている電荷を  $q(t)$ 、コンデンサに流れる電流を  $i_C(t)$  とする。このとき電源の角周波数は  $\omega_0 = 5 \text{ rad/s}$  であるので



$$Ri_C + \frac{q}{C} = 10 \sin\left(5t + \frac{\pi}{2}\right)$$

ここで、 $i_C = dq/dt$  の関係を利用し式を書き換え、振幅表現のフェーズで書き表すと

$$R_0 \frac{dq}{dt} + \frac{q}{C} = 10 \sin\left(5t + \frac{\pi}{2}\right) \rightarrow \left(j\omega_0 R_0 + \frac{1}{C}\right) Q = 10e^{j\frac{\pi}{2}}$$

ここで、 $Q$ 、 $10e^{j\frac{\pi}{2}}$  はそれぞれ振幅表現した電荷  $q(t)$  と電圧  $v_0$  のフェーズである。上式を  $Q$  について解くと

$$Q = \frac{C \cdot 10e^{j\frac{\pi}{2}}}{1 + j\omega CR_0} = \frac{\frac{2}{5}e^{j\frac{\pi}{2}}}{1 + j} = \frac{2}{5} \cdot \frac{e^{j\frac{\pi}{2}}}{\sqrt{2}e^{j\frac{\pi}{4}}} = \frac{\sqrt{2}}{5}e^{j\frac{\pi}{4}}$$

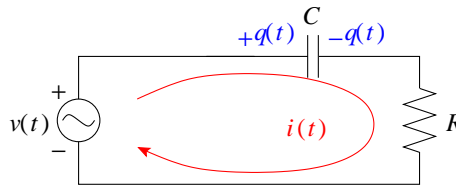
$Q$  を時間の関数の形で書き表すと

$$q(t) = \frac{\sqrt{2}}{5} \sin\left(5t + \frac{\pi}{4}\right)$$

したがって、 $t = 0$  でコンデンサに蓄えられている電荷は

$$q(0) = \frac{\sqrt{2}}{5} \sin \frac{\pi}{4} = \frac{\sqrt{2}}{5} \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} = \frac{1}{5} \text{ C}$$

(b) 次に  $t > 0$  を考え、回路方程式を立てると以下のように書ける



$$R \frac{dq}{dt} + \frac{q}{C} = 20 \sin\left(\frac{5}{\sqrt{3}}t - \frac{\pi}{6}\right)$$

上式の定常解  $q_s(t)$  は以下の微分方程式を満たし、2(a) と同様にフェーズを使って右の式を得る

$$R \frac{dq_s}{dt} + \frac{q_s}{C} = 20 \sin\left(\frac{5}{\sqrt{3}}t - \frac{\pi}{6}\right) \rightarrow \left(j\omega R + \frac{1}{C}\right) I_s = 20e^{-j\frac{\pi}{6}}$$

ここに  $\omega = 5/\sqrt{3}$  であり、 $I$  は振幅表現での電流のフェーズである。 $I$  について解くと

$$Q_s = \frac{C \cdot 20e^{-j\frac{\pi}{6}}}{1 + j\omega CR} = \frac{\frac{4}{5}e^{-j\frac{\pi}{6}}}{1 + j\sqrt{3}} = \frac{4}{5} \cdot \frac{e^{-j\frac{\pi}{6}}}{2e^{j\frac{\pi}{3}}} = \frac{2}{5}e^{-j\frac{\pi}{2}}$$

$Q_s$  を時間の関数の形で書き表すと

$$q_s(t) = \frac{2}{5} \sin\left(\frac{5}{\sqrt{3}}t - \frac{\pi}{2}\right)$$

一方、過渡解  $i_t(t)$  は以下の微分方程式を満たす。

$$R \frac{dq_t}{dt} + \frac{q_t}{C} = 0$$

上式は、1 階の微分方程式であり、その階は以下のように求まる。

$$q_t(t) = Ae^{-\frac{t}{CR}} = Ae^{-\frac{5}{3}t} \quad (A \text{ は積分定数})$$

したがって，一般解  $q(t)$  は以下のように書ける

$$q(t) = q_s(t) + q_t(t) = \frac{2}{5} \sin\left(\frac{5}{\sqrt{3}}t - \frac{\pi}{2}\right) + Ae^{-\frac{5}{3}t}$$

ここで，未知の積分定数  $A$  を決めるために，2(a) で求めた結果を用いると

$$q(0) = \frac{2}{5} \sin\left(-\frac{\pi}{2}\right) + A = -\frac{2}{5} + A = \frac{1}{5} \quad \rightarrow \quad A = \frac{3}{5}$$

したがって

$$q(t) = \frac{2}{5} \sin\left(\frac{5}{\sqrt{3}}t - \frac{\pi}{2}\right) + \frac{3}{5}e^{-\frac{5}{3}t} = \frac{1}{5} \left(-2 \cos\left(\frac{5\sqrt{3}}{3}t\right) + 3e^{-\frac{5}{3}t}\right)$$

以上より，抵抗  $R$  に流れる電流  $i(t)$  は  $t \geq 0$  において以下のように表される．

$$i(t) = \frac{dq(t)}{dt} = \frac{2\sqrt{3}}{3} \sin\left(\frac{5\sqrt{3}}{3}t\right) - e^{-\frac{5}{3}t} \text{ A}$$